

宮本輝 プロフィール

1947年、兵庫県神戸市生まれ。1966年追手門学院大学文学部に入学後、体育会硬式テニス部に入部。創立したばかりの大学だったため、当時テニスコートもなく、その練習はコート作りから始まったのだった。1970年、追手門学院大学卒業。この大学生活が後に『青が散る』となる。1977年、処女作『泥の河』で第13回太宰治賞を受賞。その翌年に『螢川』で第78回芥川龍之介賞を受賞。1981年、『泥の河』が小栗康平監督により映画化され、モスクワ国際映画祭銀賞受賞。これをきっかけに次々と作品が映画化、ドラマ化されることとなる。1987年、『優駿』で吉川英治文学賞を歴代最年少で受賞。2004年『約束の冬』で芸術選奨文部科学大臣賞文学部門を受賞。2010年、秋の褒章で紫綬褒章を受章。物事の機微を捉えた作品で人々の心を魅了し続けている。

茨木市 文学に親しむための3拠点

茨木市には、市の文化活動として、『川端康成文学館』『富士正晴記念館』が設けられています。『宮本輝ミュージアム』は、これら2つの施設とともに、市民や学生が文学に親しむ場を提供していきます。

川端康成文学館

昭和43年(1968年)日本で初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成の“ゆかりのふるさと”である茨木市は、氏の業績を讃え、それを誇りとして、「茨木市名誉市民」の称号を贈るとともに、昭和60年(1985年)5月、川端康成文学館を開館しました。

〒567-0881 茨木市上中条2-11-25 TEL:072-625-5978
 【開館時間】午前9時～午後5時(月曜日のみ午前9時～正午)
 休館日は上記へお問い合わせください。



富士正晴記念館

茨木市立中央図書館に併設されているこの記念館の資料は、昭和63年(1988年)富士家より茨木市に寄託されたものです。その総数は8万点に及び、一人の文学者が残した資料としては最大級のものであります。館内には、富士正晴の書斎も復元されています。

〒567-0028 茨木市畑田町1-51 茨木市立中央図書館併設 TEL:072-627-7937
 【開館時間】午前9時30分～午後5時
 休館日は上記へお問い合わせください。



宮本輝ミュージアム

「真っ白な原稿用紙に
 最初の一字か二字を書いた瞬間、
 地の底に落ちて行くような
 不安と絶望を感じる。」

【ひとたびはボブラに臥す】第16章より

宮本輝の物語は、よどみなく書かれたわけではない。
 書けなくなる恐怖と闘いながら、一文字ずつ刻み込まれる。
 葛藤を乗り越えて生まれた作品だからこそ、私たちの心を捉えてやまない。
 人間に対する深い洞察力。
 言葉への強いこだわり。
 生の厳しさの中にあるひとすじの光。
 宮本輝の世界を心で感じてみてください。

Access

スクールバス利用

阪急茨木駅西口から発車 JR茨木駅(茨木ジョイビングセンター横)から発車

阪急バス利用

【JR茨木】から
 「追手門学院前」下車
 (JR茨木駅前3番バス乗場
 82・88系統)

※スクールバスはどなたでもご利用いただけます。時刻表につきましてはHPでご確認ください。

Address

宮本輝ミュージアム (追手門学院大学附属図書館 内)
 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 TEL:072-641-9639 FAX:072-643-9786
 【開館時間】図書館開館時間に準ずる。 ※詳しくはHPでご確認ください。
 URL:(附属図書館) <http://www.oullib.otemon.ac.jp/>
 (宮本輝ミュージアム) <http://www.oullib.otemon.ac.jp/teru/index.html>



『宮本輝ミュージアム』は、 作家 宮本輝の作品世界や想いを、 そのまま感じていただく ための場所です。

サインや落款入りの書籍をはじめ、
直筆原稿（複製）、愛用品や学生時代のアルバムなど
宮本氏ゆかりの品々を幅広く展示しています。

また、上記の常設展に加え、
期間を定めて企画展を実施しています。



常設展

年譜・愛用品展示

宮本氏の生誕から現在に至るまでの年譜と幼い頃からの写真や、愛用品の数々を展示しています。上部には、ミュージアム開館の際に贈られた、同氏直筆の詩を掲げています。



作品展示棚

宮本氏の作品や関連書籍を、「作家活動のはじまり」「映画化された代表作」「海外を舞台にした作品」「青春時代を描いた作品」「“父と子”を描くライフワーク『流転の海』」「川三部作」「新聞連載小説」「シルクロードの旅」など、テーマに分けて紹介しています。貴重な原稿の複製も陳列しています。



書籍棚

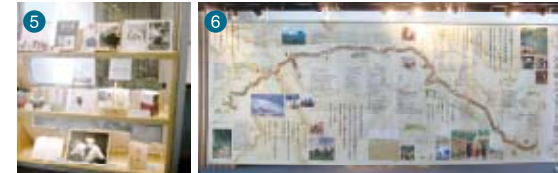
宮本氏の作品を自由に手にとってご覧いただけます。（希望者には貸出も行ってきます）
AV資料として、映画化作品や、本学制作によるオリジナルビデオ（『作家 宮本輝が語る』など）もあります。館内AVブースにてご鑑賞ください。



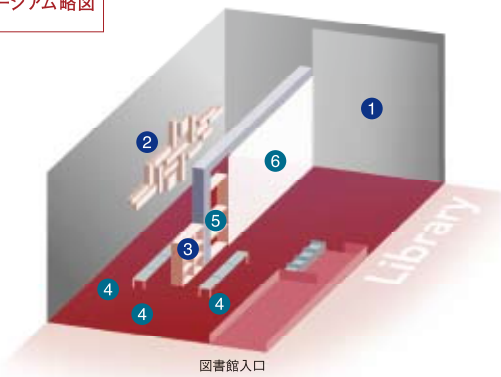
企画展

企画展示

一つひとつの作品を深く掘り下げた内容や、作品全体を通して宮本氏を深く感じていただくための展示を行っています。映画のポスターや新聞記事、貴重な資料を展示し、さまざまな角度で捉えた作品世界をご覧くださいませ。



ミュージアム略図



Relationship with Otemon Gakuin

追手門学院大学は宮本輝ゆかりの地
追手門学院創立120周年を記念して、2005年5月、追手門学院大学附属図書館内に、『宮本輝ミュージアム』を開設しました。小説『青が散る』は本学が舞台となっており、第一期生である宮本氏が当時の生活のもとに描いた作品です。また、学内にある初代学長故・天野利武先生顕彰碑の碑文も同氏によるものです。



「青が散る」1982年 文藝春秋



初代学長 故・天野利武先生顕彰碑

